

平成28度 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 受賞個人・組織 活動概要

I. 次世代を担う若手地域リーダー部門

賞の名称	都道府県名	受賞者氏名	概要
農林水産大臣賞	岡山県 備前市	もりやす 森安 かな	非農家出身である森安氏は、民間企業退職後、岡山県立農業大学校に入学。平成16年卒業後、夫と共に備前市で就農。平成23年に夫と家族経営協定を締結、夫婦で部門管理体制をとっている。担当する水稲部門は農薬を使わないアヒル農法を導入し他との差別化を図る他、地元の集落営農組織と連携し、自身が開拓した販路を活用して販売を行うなど、有利販売に繋げている。平成25年農林水産省の農業女子プロジェクトに参加、平成26年に県農業士の認定を受け、地域農業の活性化や女性を取り組みやすい農業環境への改善が必要と考え、地元の農業者や営農組織との連携活動や「おかやま農業女子」設立による交流活動を展開している。また、農業高校生や農大生の若手女性とも交流し、農業現場の情報を伝えながら農業のイメージアップを図るなど次世代育成にも努めている。地域を代表する農業士として、「おかやま農業女子」の共同代表、各種委員として、農業現場や女性の立場からの意見を代弁、情報発信する機会も多く、地域農業の発展的取組に積極的に関わっている。
農林水産副大臣賞	長野県 小谷村	ふじはら まゆみ 藤原 真弓	東京都出身の藤原氏は平成9年結婚を機に小谷村伊折集落へ移り住む。平成17年、集落全戸が加入する伊折生産組合の発足をきっかけに、翌年から棚田のオーナー田の取組を始め、都会から沢山の人が訪れるようになった。伊折の良さを訪れる人にもっと知ってもらいたいと、平成25年に行政の支援を受け、築150年の古民家を改修した農山村体験交流施設“ゆきわり草”をオープン。伊折の良さ、残したい文化や雪中キャベツ収穫体験等を若い人や都会の人達にも喜んでもらえる体験として企画し、講師は村の高齢者が勤める。この体験を目的に伊折を訪れる人も増え、都市と農村、集落内外の人の交流の場となり、高齢者にとっても生きがいとなっている。また、小谷村内外や他集落との交流を進めようと、ゆきわり草女子会を設立。小谷に住む各年代の女性が講師となり、手仕事や料理、語り部の方から小谷民話を聞くなど、交流することで、伊折の文化、小谷の文化が継承されている場作りを行っている。
農林水産大臣 政務官賞	群馬県 藤岡市	まつもと ともえ 松本 知恵	松本氏は、他産業から農業へと転職、夫の寿夫氏のパートナーとして、JA出荷のトマト栽培を行う。平成25年に農産加工部門「とまとや」を起業し、現在は加工部門「とまとや」と、トマトハウス一棟の栽培管理を担当。生産部門では、加工や販売で付加価値が高いフルーツマトや色とりどりのトマトを新たに導入。加工部門では、業者に委託し高糖度のフルーツマトブレンドジュースとフルーツマト100%ジュースを製品化、さらに自宅の一部を加工室に改造、菓子製造許可を取得して加工品の開発と製造を行っている。SNSを活用してイベント出展、異業種交流にも積極的に取り組み、農業に対する理解を促しながら、ネットワークを拡大させ、コラボ商品づくりや販路拡大に取り組む。また、群馬県農政部が主催する、若手農業者のリーダーを育成する「フロントランナー養成塾(6次産業化コース)」の第1期卒業生として、仲間と連携したマルシェの開催や出店を行いながら、農業の魅力を発信している。

平成28度 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 受賞個人・組織 活動概要

II. 組織における女性登用部門

賞の名称	都道府県名	受賞者氏名 受賞組織名	活動内容
農林水産大臣賞	宮城県 栗原市	<p style="text-align: center;">みやぎけんくりはらし 宮城県栗原市 のうぎょういんかい 農業委員会</p>	<p>栗原市農業委員会は、「女性農業者のつどい」や「季節の郷土料理教室」の開催、「栗原市民まつり」への出展等女性農業委員を中心とした活動を積極的に展開し、地域住民の農業委員会への理解と関心を高めており、女性の農業委員への登用促進と、農業委員会の各種事業に大きな成果を上げている。平成26年の改選では、4名の女性農業委員が全員選挙に立候補して当選、新たな選挙委員1名と選任委員3名を加え、女性農業委員数は8名となった。農業委員における女性の登用率は17.4%で、この時点での女性農業委員数は全国第1位であり、宮城県内の女性の登用率を大きく引き上げた。また、女性農業委員の活動をより強化するため、平成28年度に栗原市農業委員会専門委員会に「女性委員会」が新たに設置された。栗原市が平成17年4月の市町村合併の際に設置した3つの農地部会と、専門委員会である運営委員会、農政委員会、農業委員会だより編集委員会とともに、女性農業委員の活動が栗原市農業委員会の基幹的活動の重要な一部門として位置づけられている。</p>
農林水産副大臣賞	千葉県 船橋市	<p style="text-align: center;">さいとう きょうこ 齋藤 教子</p>	<p>齋藤氏は、平成8年7月に千葉県初の女性農業委員として船橋市において選挙により選出された。平成16年3月の「千葉県女性農業委員の会」の設立時には中心となって尽力し、会長として12年にわたり女性農業委員の登用促進と、活動のあり方について会員をけん引している。また、県内の女性団体「千葉県農山漁村女性団体ネットワーク」では研修会の企画開催、女性農業委員、審議会委員等への登用要望活動等、県全体の女性農業者の経営参画、社会参画に一層の役割を發揮し、常に男女共同参画に対する国・県の動きを理解し、目指すところに向けて会員の理解を促し、実践に繋がるよう意識啓発を進めている。また、全国段階、県段階等、出席した会議では必ず発言し、その内容も多角的な視点で、前向きな議論を進め、研修会等の効果を一層高めるものである。委員歴が長くなった今も、現地に足を運ぶことを信条とし、その場での情報発信を心がけ、参加者と意見交換することで思いを共有する姿勢は、周辺の農業委員にも大きな影響を与えている。</p>
農林水産大臣政務官賞	北海道 新冠町	<p style="text-align: center;">いずみさわ みどり 泉澤 碧</p>	<p>泉澤氏は就農5年目(平成26年7月)に、新冠町議会の推薦によって全国最年少の27歳で女性農業委員に就任した。地域でも、地元小学校の社会科見学(農業体験)の受入や放課後子ども教室での野菜作りの指導を行い、子供たちが農業に親しみ、理解を深める活動などに貢献するほか、出身大学や地元農業高校において講演を行い農業・農村の魅力や自身の活動内容を発信することで、就農促進・農業への理解醸成に貢献している。また、地域の青年・女性農業者として、北海道4Hクラブ連絡協議会の理事や全国農業青年クラブ連絡協議会の北海道ブロック理事に就任する他、農業女子ネットワーク「はらぺ娘」の設立からのメンバーとして若い世代の女性農業者による新しい発想や価値観を活かした活動に積極的に取り組んでいる。こういった若者・女性の活動を広げていくことにより更なる若者(後継者や新規就農者)を地域に呼び込むことを目指して、日々努力を続けており、北海道内でも数少ない女性農業委員として、女性の社会参画・地域活性化のモデル的存在として、今後とも益々の活躍が期待される。</p>